

令和元年度 政策づくり塾 第3回活動報告

7月5日に、第3回政策づくり塾を開催いたしました。

OB塾生(平成30年度第7期塾生)を招き、当時の塾活動に関する体験談について話を伺った後、ディスカッションを行いました。

OB塾生の講義・報告

OB塾生から、塾生時代どのような活動を行っていたのか、また、塾を修了してからどのような活動を行っているのか、塾活動で実につけた力がどのように生かされているのかについての体験談を聞き、質疑応答を行いました。

【内容】

◆活動内容

➢初産婦を対象としたヨガ教室(託児所あり)とランチ交流会の実施。

◆実施目的

➢孤立しがちになっているお母さんヨガ教室を通してリラックスする時間を提供する。

➢交流会の機会を設けることで、お母さん同士のネットワークをつなぐ。

◆活動にあたって工夫した点、苦労した点

➢テーマのプレゼンを行う時には、目的と手段が聞き手に伝わるようなプレゼン内容にするとよい。

➢グループに分かれての活動がスタートしたら、ToDoリストを作成するなどして「誰が、何を」することを明確にすることが大切。

➢各グループのリーダーは、どういう目的で行う活動なのか、何を目標としているのかについて、長期の活動となるので、他のメンバーが忘れないように言い続ける必要がある。

【塾生との質疑】

➢広報はどのようにして行ったのか。

→今回の活動において募集したい対象が「自分からはあまり積極的に手をあげる事が出来ないお母さん」であったことから、広報誌やHPにイベント案内を掲載するなどという大々的な広報は行わなかった。本当に参加してほしい方に案内できるよう、保健師の方に相談し、保健師の方が各家庭を訪問される際にお母さんの様子を見て、プロの視点で参加いただく方を決定した。

➢最初のテーマプレゼンの時から手法の詳細まで決定していたのか。

→目的やどのような内容のイベントを開催するのかというところは最初のテーマプレゼンの時から変更はない。参加者を募集する手法については、政策づくり塾の事務局に相談し、保健師さんに声をかけてもらうという方法を教えてもらった。

➢もう1度活動を行うとすればどのような点を改善しようと思うか。

→ランチ交流会の配席をしっかりと検討したいと思った。

ヨガ教室の時、参加者それぞれの様子を確認できていたので、保健師や助産師といった専門家の方の近くに座って直接相談できるところに座ってもらったほうがよい人、できるだけたくさんのお母さんや塾生メンバーと話がしやすいところに座ってもらうのがよい人など、交流会を行うレストランに参加者が向かう前に塾のメンバー同士で情報共有をしておけると、さらに良かったのではないかと考えた。

➢グループでうまく活動していくために大切なことは何か。

→誰が、何を、いつまでにするのかをリーダーが管理することが大切。それぞれの担当が現在どこまで割り当てられた仕事を進められているのか、仕事が止まっているとすれば何が原因となっているのかをきちんと管理できれば余裕を持って当日に臨むことができる。また、担当したいことについては立候補制にして、それぞれのメンバーが自主性を持って活動に参加できるように工夫をしていた。



▲OB塾生講義の様子

OB塾生の講義・報告

【舞鶴青年会議所(JC)からの成果報告】

現在、第4回政策づくり塾で行った小学生を対象とした職業体験イベント「わくわくワーク」をJCが引継ぎ、事業として行っています。昨年度のその事業がJCの行っている事業の中でも特に優秀であると評価され、京都府知事賞を受賞した旨、報告が行われました。

また、今年度も引き続き第3回わくわくワークが開催されることも併せて案内されました。

◆第3回わくわくワークの概要

日時:8月3日(土)13:00~16:00

会場:舞鶴文化公園体育館

対象:舞鶴市内在学の小学校3年~6年生

募集人数:130名

募集期間:7月11日(木)~7月25日(木)

体験ブース数:17ブース

その他:わくわくワークの詳細につきましては、下記URLからご確認ください。

URL:<http://maizurujc.org/>



▲JCからの受賞報告後、今回の塾の参加者全員での集合写真を撮影しました

グループワーク

OB塾生の体験談をお聞きした後、グループで意見交換を行いました。

まず、これまでのOB塾生の話を聞いて、どのような感想を持ったのか、共有しました。

次に2040年の未来を一言で言い表すとどうなるか、また、その時の自分の姿・現状はどのようなものかについても意見を出し合いました。それらについて意見交換をする中で、今後の地域公共政策活動として取り組めそうなことは何か、アイデアを発表し合いました。

【塾生の意見】

◆2040年の地域社会はどのようになっているか

>車の自動運転化が進み、公共交通が発展し、渋滞などなくなっているのではないか。

>コンパクトシティが形成され、大きなビルが形成され、その周辺に市街地が形成されている。その間をドローンが荷物を運んだりすることが考えられる。

>自動化が進み、また効率化が進むことによって仕事が変わっていることが考えられる。

◆2040年の自分とはどのようになっているだろうか

>利便性を享受しつつ不便な部分を楽しめる生活ができていたらよい。

>地域の人の親密な関係を作れる場を継続できていればよいと思う。

◆公共政策活動のテーマのアイデア

>クルーズ船の入港も近年多くなっていることから、異文化交流の場を作れるような活動ができないだろうか。

>コアな趣味をもった人たちをつなぐ場を提供できるような活動ができないか。

>移住者による各地域の郷土料理のお披露目会ができないか。

各地域の料理を食べながら移住者同士の交流ができる場が提供できないだろうか。

>舞鶴市で、幅広い年代が楽しむことができる「スポーツ」をテーマとした取組ができないか。例えば、高校生を対象として体育館などで様々なスポーツができるような、イベントが開催できないだろうか。

>高齢者に向けたスマホの操作を教える会を設けることができないだろうか。

>ボランティアを通して高校生にまちのことを知ってもらえる取組ができないだろうか。

>各地域ごとにより細かい情報まで載せたマップの作成ができないだろうか。例えば駐車場の場所や公衆トイレの場所を細かく記載したようなものが作成できないだろうか。

>高校生を対象とした、相談会を実施できないだろうか。実際に舞鶴市で働く方に依頼し、舞鶴でどのような仕事ができるのか、舞鶴で働くことにどのようなメリットがあるのかを詳細まで聞けるようなものができないだろうか。

>リアルすごろくができないだろうか。すごろくで止まったところでそれぞれミッションを与え、それらをクリアしてもらえないような内容にできないだろうか。



▲意見交換の様子